

# バーテンダーを、もっと 社会から必要とされる存在に したいのです。

バー・ノブブル  
代表 山田高史さん

高校生の頃からバーテンダーを志し、二十代半ばで開業。お店を切り盛りする一方でコンペティションに積極的に参加。2010年「全国バーテンダー技能競技大会」優勝。2011年「国際バーテンダー協会世界カクテルコンペティション」優勝という輝かしい受賞歴を持つ。現在横浜で2店舗を経営する傍ら、日本バーテンダー協会国際部長として業界発展のために奔走している。  
<http://noble-aquar.com/>

江森：2011年の国際バーテンダー協会世界カクテルコンペティションで優勝された後も、あちこち世界を飛び回っているようですが、最近はどうな活動をされているのですか。

山田：最近では競技者としてではなく、大会のジャッジのほか、日本バーテンダー協会の国際部長として選手のアテンド、世界各地への視察などが多いですね。

江森：視察とはどのような？

山田：再来年の世界大会の開催地が日本に決まったので、日本大会に向けての調査が主な目的になります。

江森：東京オリンピックに向けては？

山田：そうですね。開催地はまだ決まっていますが、世界中からたくさんの方が訪れますので、日本の文化を発信する機会になればと思っています。

江森：山田さんはそもそもなんでバーテンダーになろうと思ったのですか。

山田：私は横浜市栄区の生まれで、大船のバーによく行っていたのです。そこでバーの持つ大人っぽい雰囲気や、カクテルの不思議なおいしさに魅了されて、何歳とはいえませんが（笑）、比較的若いうちからバーテンダーになろうと思っていました。その後食品会社に就職したのですが、昼間働きながら夜はバーでアルバイト。師匠についてというのではなく、何軒か転々としているうちに自然と仕事を覚えたという感じで、そういう意味ではほとんど独学です。

江森：同じ吉田町にもう1店舗「HOLBORN」というお店も出されていますね。

山田：はい。吉田町でも少し外れた場所なので、当初は人通りも少なかったのですが、最近近隣にお店がいくつかオープンして、それがこちらにもいい影響を与えてくれて

います。街の活性化にもつながっていると  
思います。

江森：活性化という言葉が出ましたが、吉田町界隈の活性化についても山田さんは  
様々な活動をされていますよね。

山田：吉田町は町内会の活動が活発で、この界隈の活性化は町内会長をはじめとする  
役員の方のご尽力によるところが大き  
いと思います。私も名ばかりの役員にはし  
ていただいています。また横浜で一番  
古いといわれている伊勢佐木飲食業組合に  
も加入しているのですが、最近理事になり  
まして、店舗マップの作成を提案して少し  
ずつ活動を始めるところです。

江森：あっちこちから引っぱりだこです  
ね。「JO」の7号で取材させていただいた建  
築家の笠井さんによると、このあたりは戦  
後の復興住宅という長屋式の住宅兼店舗が

街並みの景観を形成していて、それが独特  
の雰囲気を出しているということでは  
ないか。吉田町にはどんな特徴があると思いま  
すか。

山田：そうですね、飲食店がとても多いの  
ですが、それぞれに専門性がある、尖っ  
ているというか、感度の高い街だと思いま  
すね。最近ではとりあえず吉田町行こうか  
という方も増えていて、関内・桜木町エリ  
アにあつて、関内とも野毛とも違う、独自の  
アイデンティティを持つ街になってきま  
した。

江森：古くからのお店と新しいお店がうま  
く共存できているということでしょうか。

山田：私たちのようなバーに対してこんな  
に寛容な街もそうそうないのではないかと  
思っています。どうしてもお酒を扱います  
し、深夜まで営業するので、煙たがられる  
地域も多いのですが、そういう雰囲気はまっ

たくさんありません。

**江森**…このところ国も自治体も観光には力を入れていますが、外国人のお客さんは増えていきますか。

**山田**…外国人向けのメディアにとりあげられたということもあるようですが、着実に増えていると思います。

**江森**…英語で接客？

**山田**…ほとんどが英語圏のお客様なので、英語だけはないとかがんばって対応しています（笑）。英語メニューも作らなければと考えているところです。東京オリンピックに向けてますます英語は必須になっていくと思いますね。

**江森**…お酒は世界共通ですからね。お酒の文化について思うところはありますか。

**山田**…お酒は人類よりも歴史が古いと言われているぐらいで、文明の発展のあらゆる場面で密接に関わってきたものです。それは宗教的なものであったり、祝い、宴のよなものであったり、私たちの生活には切っても切れないものです。現代のようなストレスの多い時代においても、心のコリをほぐしてくれる大切な役割を担っていると思いますね。

**江森**…バーの社会的使命というか役割についてはどのように考えていますか。

**山田**…いろいろあると思いますが、まずはお客様においしいお酒と会話を楽しんでいただく健全な状態で明日への活力を得ていただくことが絶対的な使命だと思っています。一方、地域においては街のコンシェルジュ的な役割も果たせるのではないかと思います。遠方からお見えのお客様でもここに来れば観光名所やおいしいお店を教えてくださいというのは、バーの大切な役割のひとつであるように思います。



バーという業界は、市場はすごく狭いのですが、商圏が広いんですね。わざわざウチのお店に来るために、旅行先に横浜を選んでくれるという方もいるぐらいで、好きな方は全国のバーを巡り歩いています。そういう方への地域の案内役を務めることができると思いますし、私たちががんばって全国からお客様に来ていただくことで、地域への貢献にもなっていると思います。

**江森**…嗜好が強ければ強いほど期待も大きいということだと思えますが、お客様の期待に応えるということはどういうことだと思いますか。

**山田**…SNSなどを通じて情報が氾濫していますので、若手のバーテンダーなどは情報が多すぎて困惑しているように見受けられます。海外で流行っていることをマネすることが新しいことのように錯覚しているバーテンダーは多いですね。

私はそうではなくて日本人としてのアイデンティティをバーテンダーとして表現していくことが本来の姿なのではないかと思っています。それを突き詰めていくために、一見バーとは相反する茶道や空手を習っています。両極端の道を通じて、その両方が高まったときに自分のバーテイニングが完成するのではないかと考えています。

**江森**…カッコいいですね。バーに和の様式を取り入れるような試みもしていますか。

**山田**…もともとバーは西洋のものですが、西洋からいろいろな国に伝わり、世界各地でその国独自の発展を遂げるわけです。これをマルチカルチュラルイズムといいますが、日本はまさに最たるものというか完全なガラパゴス状態で、まったく独自の発展を遂げてきているのです。

例えば、お寿司屋さんも昔は屋台だったものが、今では銀座の高級なお店のように、音もなく、ピンと張りつめた空気を楽しめるような空間になっていますよね。これは茶道などに見られる種の「様式美」だと思のですが、日本のバーにもそのようなところがあります。

**江森**…様式美というのは言い得て妙ですね。確かにバーには背筋を伸ばして静かにお酒を楽しむという「スタイル」そのものを楽しむというイメージがありますね。これは西洋とは違うのですか。

**山田**…西洋ではもっとエンターテイメント性が強いというか、くだけているというかワイワイガヤガヤというのが一般的ですね。それに比べて日本のバーは堅すぎるといふ意見もあると思いますが、日本独自のものだと考えれば、それも良さなのでないかと思っています。

無駄の無い動きとか、凛とした空気感に代表されるような日本独自のスタイルを「ジャパニーズ・バーテイニング」といって最近世界でも注目されるようになってきています。またツールも日本独自のものがあって、例えば、3分割できて一番上のふたをとればそのまま注ぐことができるシェーカー、日本ではごく一般的なものですが、海外ではかなり珍重されています。



**江森**…えっ、あれは日本オリジナル？

**山田**…そうですね、海外ではツーピースカーが一般的です。スリーピースのものは新潟の燕三条などで生産されている日本製です。

**江森**…他にも日本独自のものはありますか。  
**山田**…氷屋さんなどもそうですね。あれだけの純氷を作って持ってきてくれるというサービスは海外にはありません。ロックの氷をボール型やダイヤモンド型にカットするなんていうのも日本だけです。有名なところではおしほりもそうですね。

**江森**…日本のバー文化の担い手として、山田さんの夢を教えてください。

**山田**…お店としては世界からお客様に来ていただけるようになりたいですね。そのための情報発信として日本のバー文化を伝える本を出せたらいいなと思います。

また、バーテンダーがもっと社会から必要とされるような存在になればと思っています。単にお店でお酒を作るだけではなく、ファッションデザイナーが服をクリエイトするように、ドリンクをクリエイトする「ビバレッジ・クリエイター」としての活動を通じて、バーテンダーの社会的地位を高めていきたいです。

# 厚生労働省 「トライアル雇用奨励金」が

## 職業紹介事業所からの紹介にも適用されます

「トライアル雇用」制度は、職業経験の不足などから就職が困難な求職者を、原則3か月間の試行雇用することにより、その適性や能力を見極め、常用雇用への移行のきっかけとなることを目的としています。

事業主側のメリットとしては、①労働者の適性を確認した上で、常用雇用へ移行することができ、②トライアル雇用期間終了後に常用雇用契約となった際、トライアル雇用奨励金と

して、月額最大4万円の奨励金を受け取れることが挙げられます。（最長3カ月）

平成26年3月からは、対象者要件が見直されたのに加え、ハローワーク経由での紹介だけでなく、職業紹介事業者からトライアル雇用の紹介を受けた場合も奨励金の支給対象となったため、この制度が更に利用しやすくなりました。

トライアル雇用の対象者は、次のいずれかの要件を満たした上で、紹介日に本人がトライアル雇用を希望した場合に適用対象となります。

- ① 紹介日時点で、就労経験のない職業に就くことを希望する
- ② 紹介日時点で、学校卒業後3年以内で、卒業後、安定した職業に就いていない
- ③ 紹介日の前日から過去2年以内に、2回以上離職や転職を繰り返している
- ④ 紹介日の前日時点で、離職している期間が1年を超えている
- ⑤ 妊娠、出産・育児を理由に離職し、紹介日の前日時点で、安定した職業に就いていない期間が1年を超えている
- ⑥ 就職の援助を行うに当たって、特別な配慮を要する（母子家庭、父子家庭など）

ル雇用を希望した場合に適用対象となります。

詳細は、厚生労働省、都道府県労働局、ハローワークなどのHPをご参照下さい。

また、トライアル雇用制度のうち一つのメリットとして、トライアル雇用のみで雇用関係を終了した際、「契約満了」という扱いになり、「解雇扱い」ではない点が挙げられます。そのため、事業主側は「解雇予告手当」を出す必要がなく、労働者側も履歴書に「解雇」と記載する必要はないため、両者にとって利用しやすい制度と言えるでしょう。

新しい人材確保をご検討中の方は、まずは、ハローワークや地方運輸局、または職業紹介業者に、「トライアル雇用」求人に興味があることを伝えて相談することをおすすめします。

## インターンシップ体験記

40代主婦編

「もう一度、働きたい」

夫の二度目の転勤先から戻り一息ついた頃、自然とそう思い始めていました。少しずつ準備を始めようと思い、大学が主催する「主婦のための再就職講座」を受けたり、英語の勉強を再開したり。求人サイトも気にして見るようになりました。

そんなある日、NHKの特集番組で、仕事にプランクのある主婦と中小企業を結び付ける取り組みが紹介されていました。中小企業庁が推進する『中小企業新戦力発掘プロジェクト』というこの制度は、主婦にインターンシップ（職場実習）の機会を提供し、女性の社会進出を応援し

ようという取り組みです。番組の中で紹介されていた女性が、「週3日、一日4時間の勤務です。短時間だけど本気で働いています」と話していました。

「私もこんな風に働きたい」。そう思った私は、翌朝、この制度の仲介をしている株式会社パソナに電話をし、登録説明会の予約を取りました。

数日後、説明会に参加して帰宅すると、面談をしてくださった担当者から電話がありました。「協進印刷さんという会社でライターの募集が出ていますが、いかがですか」と。ドキドキしながら協進印刷のホームページを開き、『社会とのつながりを大



切にしている会社」との印象を受け、「是非この会社で働いてみたい」と思いました。早速、話を進めて頂き、『仕事のプランク17年、40代（後半！）主婦』の私は、協進印刷でインターンとして受け入れて頂くことになったのです。

最初に担当した仕事はパンフレット作り。「特定非営利活動法人スープリズム」を立ち上げるにあたって作成するパンフレットで、私はキャラクターコピーや文章を考えることに。女

性の社会での活躍を応援するスープリズムの活動は、個人的にも是非応援したい！との思いが自然と湧き、前向きに仕事に向き合いました。そうは言っても、今まで経験のないライターという仕事。文章を書いては直し、書いては直し…。もう頭の中は、そのことについてばいばい。通勤の途中にアイデアが浮かぶと、電車の中で紙にサラサラ…とメモ。自宅で料理をしている時、犬の散歩をしている時、「あー」とひらめくと再びサラサラ…。何度となく書き直した末に、ようやく原稿にOKを頂いた時は、ホッとすると同時に格別の充実感がありました。

インターン期間は2か月間。その間、原稿の校正をしたり、社外での打ち合わせに同行したり、お客様への感謝の気持ちを表す「ありがとうの日」の企画を担当したり、本当に

たくさんさんの経験をさせて頂きました。そして、仕事を通じて多くのことを学びました。何より「言葉の大切さ」、思いを言葉にしていくことの難しさ、求める言葉を見つけた時の喜び。何かを創り上げていくことを素直に『楽しい』と感じられるようになりました。そして、この歳になって再び『新人』という新鮮さ。何かに一生懸命に取り組むことが心地よく、とても充実した2か月間でした。

私が踏み出した『小さな一歩』。気が付けば、ここでこうしてコラムを書いていることの不思議！「動きだしたら何かが変わる」と気付かせてくれました。そして、インターンが終わり、引き続きスタッフの一員として受け入れて頂くことになりました。この会社に出会えて良かった！頂いたご縁に感謝です！

（川瀬 敬子）



## 一の宮写真館

大口の魅力を紹介する「大口自慢」。今回はちよっと足を伸ばして、おとなり入江地区の「一の宮写真館」さんを訪れました。

創業は1912年（大正元年）。先代が野毛で開業し、今年で102年目を迎える老舗の写真館。二代目を継いだご両親の時代は、進駐軍や軍人さんからの依頼も多かったといいます。今回お話を伺ったのは三代目の高野光弘さん。一之宮神社の近くに写真館を構え、奥様、息子さんと共に地域の人の姿を撮り続けています。

お客さんの中には、幼少の頃から十数年にわたり、ここで写真を撮り続けている方もいます。途中、子供たちに反抗期があったり、それでも、翌年には再び写真を撮りに来てくれたり…。子供たちの成長や微妙な心の変化を、高野さんはレンズを通して見守り続けてきました。

最近はお子さんの自然な表情が撮影できるということでも屋外撮影の人氣が上昇中。お子さんの気分が乗らない時は、撮影時間の大半をお子さんとお遊ぶ時間に充て、残りの10分で撮影！ということもあるとか。満ち足りた気分のお子さんの姿は、『とっておきの一枚』に。写真を見つめる高野さんの優しいような眼差しが、とても印象的でした。



# 大口自慢

## 一の宮写真館

横浜市神奈川区入江1の7の30

☎045(421)2810

営業時間：午前9時～午後8時

定休日：水曜日

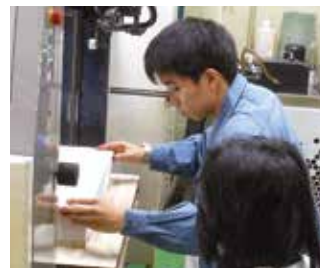
## Kyoshin TODAY

### ひと夏の経験

#### 高校生インターンを実施しました

20年以上継続している中高生キャリア教育支援の一環として、今夏に高校生インターン2名を受け入れました。私立高校2年生の男子生徒K君と、定時制高校に通う3年生の女子生徒Tさんです。

Kくんは、発達障害児専門の学習塾ラーニング・クエスト学習センターの天田塾長から紹介いただいた自閉症のお子さんです。インターン期間は7月30日～8月12日と夏休みの半分を使って、印刷機周りの仕事や商品の梱包などを中心に、自動組版の簡単なプログラミングも実践してもらいました。自閉症だけに人付き合いは苦手ですが、真面目で仕事の覚えも早く、特にパソコンを使った仕事では高い能力を発揮してくれました。彼の得意分野を活かした職に就けるよう、これからもサポートしていければと思います。



Tさんは、さくらノートの長塚瞳さんから紹介いただき、学生職業体験のカリキュラムと同じ、新聞づくりを体験してもらいました。実はTさん、インターン初日に大遅刻。その日は調子が上がらなかったのが、居眠りしてしまうひとコマもありました。ところが翌日は見違えるように仕事に熱心に取り組み、取材の社員インタビュも精力的にこなしていました。将来の夢は「作家」というTさん、リアクションや相槌がとても上手く、インタビュアーの隠れた才能を発揮。文章の表現力もあり、すばらしい新聞が出来上がりました。夢に向かって、いまから少しずつ作品を書き溜めているとのこと。将来が楽しみな女の子でした。



の隠れた才能を発揮。文章の表現力もあり、すばらしい新聞が出来上がりました。夢に向かって、いまから少しずつ作品を書き溜めているとのこと。将来が楽しみな女の子でした。

## 女性の活躍を応援！

### NPO法人スープリズム設立に協力

去る9月18日に、ロイヤルホールヨコハマにてNPO法人スープリズム設立式典が開催され、およそ70名の方々が集まりました。スープリズムは、地域、企業、保育が連携し、多様な働き方やライフスタイルの実現ができる環境をつくり、女性の活躍を広く応援していきたいという思いから生まれたNPO法人です。

式典の基調講演では、スープリズム発起人の一人、建築家で元JIA神奈川代表の青木恵美子さんが、男性優位社会であった旧態依然の大手設計会社に勤めたことや、当時の子育てにおける苦労や後悔について語り、それでもいつも笑顔絶やさず前向きに働き続けてきたというお話に、会場は感動と共感の拍手で溢れていました。

続けて行われた記念パーティーでは、スープリズム代表の菊地加奈子さんが、今年8月に出産されたばかりの赤ちゃんを胸に抱き、これからの活動と社会の仕組みづくりについて抱負を語りました。スープリズムにご興味のある方は、弊社までご連絡下さい。



11月27日開催の協進印刷CSR報告会『ありがトツナイト』へのたくさんのお申し込みありがとうございます。初めての試みで、社員一同ドキドキしておりますが、精一杯務めます。当日のご来場を心よりお待ちしております。

JO(ジエイ・オー)2014年10月号(第9号)

発行者：株式会社協進印刷

横浜市神奈川区大口仲町108番地

TEL: 045(431)6611

FAX: 050(3730)6273

URL: <http://www.kyoshin-print.co.jp>

